

年4回（4月、7月、10月、1月の各10日）発行

ひゅーまん ねつとわーく

地域生活

2021年1月発行/第84号

社会福祉法人 北摂杉の子会

〒569-0071 大阪府高槻市城北町1丁目6-8 奥野ビル3F TEL 072-662-8133 FAX 072-662-8155 info@suginokokai.com



ジョブサイトひむろ「ポールウォーキング」 摂津峡公園 溪谷コース

左：西山大智さん 森 善希さん 右上：林 恵子さん 右下：佐藤由美さん 武田誠司さん

新年を迎えて



社会福祉法人北摂杉の子会

理事長 松 上 利 男

1. はじめに

新型コロナウイルス感染拡大が続く中、令和3年の新年を迎えました。

皆様もご存じの様に、知的障害・自閉スペクトラム症のある人は、自身を取り巻く環境の意味の理解が苦手なことから、環境の変化の理解や見通しを持つこと、コミュニケーションの困難性という障害特性があります。ご利用者の方々は、このような困難性を抱えながら、コロナ禍による環境の大きな変化の中で、多くのストレスを抱えながら暮らしておられます。私ども支援者としては、新型コロナウイルス感染の一日も早い終息を祈りながら、ご利用者に寄り添い、少しでも安心して暮らすことのできるための様々な工夫や改善策を考え、支援に活かしつつ、引き続きより良い支援の提供に注力したいと存じています。

また、このような厳しい生活環境の中、真摯にご利用者に向き合い、支援をして頂いている職員の皆様に衷心より感謝いたします。

2. コロナ禍で明確になった課題

(1) 住環境の課題

このコロナ禍の中で、現在まで抱えていた知的障害・自閉スペクトラム症のある人に対する制度的課題が顕著に現れました。

その一つは住環境の課題です。大阪府下でも障害者支援施設での新型コロナウイルス感染のク

ラスターが続きました。障害者支援施設は集団での暮らしであり、居室の多くは二人部屋等の住環境にあります。従来より感染症に対する感染防止対策に課題がありましたが、コロナ禍の中、その課題が噴出しました。

私ども法人は、21年前に知的障害者入所更生施設（現障害者支援施設）を開設しましたが国庫補助金の申請協議を大阪府と行ったときに、私どもが考える利用者支援の基本方針と施設の基本設計を示しました。

私どもの利用者支援の基本方針は、地域社会との連携の下、社会参加を基本とした普通の暮らし、障害特性に配慮したニーズベースの支援の提供でした。その暮らしは、集団での暮らしではなく、出来る限り普通の暮らしに近い住環境を提供することにありました。

そこで、4つの小舎制の建物とユニット、全室個室の基本設計図を提出しました。

当時としては斬新な提案でしたので、大阪府の担当者には全く理解されず、大阪府からの「指導」で4つのユニット構成で、ユニット毎にリビング・ダイニング・キッチンを設ける設計は残りましたが、全室個室の夢は断たれました。

入所施設における新型コロナウイルス感染のクラスター発生の報道に接するたびに、「小舎制・ユニット制・一人部屋などの普通の暮らしに近い住環境の提供ができていれば、クラスターを防ぐ

ことが出来るのに」との悔しさが込上げてきます。

(2) 医療支援、医療連携の課題

特に重い知的障害・自閉スペクトラム症のある人、多くの「行動的課題」のある人の入院の受け入れをして頂ける医療機関が少ないという現状があります。また、受け入れの条件として、病院から付き添いを求められることがほとんどです。重度訪問介護の制度を利用すれば、入院時に病院スタッフと障害のある入院患者との意思疎通をサポートする支援サービスがありますが、それを担う支援者には高い専門性が求められることもあり、その活用は広がっていません。入院の課題以前に、日常の受診も苦勞しているのが現状です。

コロナ禍の中で、障害のある人が適切な医療支援が受けられないという課題が浮かび上がりま

した。

一昨年、韓国清州（チョンジュ）にある福祉法人から「行動障害」のある人の支援についての研修依頼があり、チョンジュ市を訪れましたが、「韓国では自閉症の人たちを受け入れるための拠点病院がある」との話を聞きました。

コロナ禍の中で顕著になった障害のある人に対する医療課題の解決は急務であると思っています。

3. 課題解決に向けて

コロナ禍の中、私が会長職を担っている一般社団法人全日本自閉症支援者協会が上述した課題の解決に向けて、国、厚生労働省に提言と要望を行っています。その提言と要望をお読み頂き、ご意見を頂ければ幸いです。

*** 「提言と要望」 ***

(1) 生活の質の向上：小規模・分散・ユニットケアの推進について

行動障害は、障害特性と環境との相互作用により行動障害が誘発されます。行動障害の誘発を防ぐためには、障害特性に基づいた合理的配慮（障害特性に基づいた人を含めた環境の提供）を行うことが重要です。自閉スペクトラム症のある人の支援については、個々の障害特性に基づいた住環境の提供が必要であり、その提供が可能となる一人暮らしや少人数の暮らしの支援が必要です。また、それらの環境に適しているグループホームでの支援実践を通して、その有効性が確認されていますが、強度行動障害のある人を支援するグループホームの建設には建設コストが高くなります。強度行動障害のある人の障害特性に配慮した住環境実現のために、以下の制度の創設をお願いします。

①障害支援施設の「小規模化・ユニット化、個室化」の推進に向けた施設改修補助金とユニット加算の創設

(2) 地域移行、地域での暮らしの充実に向けて

前述しましたように強度行動障害のある人の支援、暮らしの支援にはグループホームや一人暮らしの支援が合理的配慮からも求められています。しかし、個々の合理的配慮に基づいた住環境の整備には建設コストが高くなります。また利用初期にはアセスメント、環境調整等の多くの支援が必要となります。その解決、支援の推進に向けて、以下の制度の創設をお願いします。

- ①強度行動障害のある人のグループホーム等への移行について、移行時加算の創設
- ②重度障害者支援加算の対象区分の拡大
- ③日中支援型グループホーム報酬単価の増額
- ④強度行動障害のある人のグループホーム等整備のための施設整備費の増額補助

(3) 医療連携の充実について

コロナ禍に関わらず強度行動障害を伴う人の診察、入院受け入れは、困難を極めています。重度訪問介護利用者の入院時のコミュニケーション支援のサービスが整えられましたが、そのサービス提供事業所が極めて少なく、地域的にも大きな課題です。コロナ禍の中で、行動障害のある人たちは、コロナに感染した場合、必要な医療提供がなされず、命が奪われる危険にさらされています。医療提供における課題解決に向けて、以下の対策をお願いします。

- ①強度行動障害のある人の診察、入院が出来る医療環境の整備や医療従事者の研修の推進
- ②入院時コミュニケーション支援対象者の拡大と支援者の養成
- ③障害者支援施設で新型コロナウイルス感染症のクラスター発生時の施設への医師・看護師等、医療職の派遣

令和2年5月6日

厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部
橋本 泰宏 部長様

一般社団法人 日本自閉症協会 会長 市川 宏伸
一般社団法人 全日本自閉症支援者協会 会長 松上 利男

Covid-19による障害者施設壊滅危機への早急な援助要望（抜粋）

- (1) 施設入所、在宅の知的・発達障害者の感染予防や治療のために不足している物資やマンパワー（一部は4月17日の要望書に記載）について、都道府県等が把握かつ必要な対策を行うように指示または連絡をしてください。
- (2) 知的・発達障害者の特性をふまえた情報発信を、厚生労働はじめ政府関係機関から（私ども当事者団体、支援者団体も協力しますので）迅速に行ってください。

4. 最後に

コロナ禍の中、制限の多い暮らしから、一日も早く普通の暮らしが戻ることを利用者、職員一同、祈っています。

年頭にあたりまして、利用者家族の皆様はじめ、

私ども法人運営にご理解とご尽力を頂いている皆様方の今年一年のご健康とご活躍を心からお祈りいたしますとともに、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年度 5法人ジョイントセミナー



2021.1.19版
チラシの内容が一部変更になることがあります

テーマ

ライフステージを通じた切れ目のない支援

～支援現場の実践を通じて「豊かに暮らす」を考える～

新型コロナウイルスの感染拡大の影響も大きい昨今ですが、こうした中でも日々の生活は続いていき、それを支える支援も続いていきます。今回のジョイントセミナーでは、ライフステージを通じた切れ目のない支援をテーマに、広くライフステージを通じた支援の実践報告を行います。各地域で先駆的な実践を積み重ねてき

た5法人の報告から、地域での豊かな暮らしを支える支援のアイデアやヒントを学んでいただけます。また、今回はWEBセミナーになります。時間と場所をオンラインで飛び越え、多くの支援者の方とライフステージを通じた支援について考える機会にしていきたいと考えています。

開催形式

WEBセミナー

2021年2月15日～3月15日まで配信

参加費：1,500円

※専用サイトから配信 期間中は好きな時間で視聴できます 期間中もお申込みいただけます(3月8日まで)

■ 内容

- 開会の挨拶：ライフステージを通じた切れ目のない支援の重要性
国立のぞみの園研究部長 日詰正文
- 実践報告：5法人より8事例
- 閉会の挨拶：「豊かに暮らす」を考える
社会福祉法人 北摂杉の子会理事長 松上利男

■ 「実践報告概要」

- 児童発達支援センターにおける家族支援
- 児童のコミュニケーション支援を家族と共有した支援
- 発達障害支援に特化した訪問看護ステーションの実践
- 施設入所支援で構造化アイデアを使った支援
- 社会的入院からの施設への移行支援
- 地域で多職種連携のもと個別化された単身生活の支援
- 発達障害者支援センターによるコンサルテーションでのスタッフ育成と積み上げができる支援のワークシート「みらくる」の実践
- 法人独自事業の施設コンサルテーションの実践

申し込みについて

令和2年度5法人ジョイントセミナーに参加ご希望の方は、下記よりお申し込みください。

【申し込みURL】

QRコードはコチラ→



- 申し込み完了後、お支払い情報をメールにてお送りします。
- 入金確認後、視聴用アカウントの発行となります。
- 申し込み締め切り 3月8日

<https://forms.gle/1LNzDiWAskpwro1t6>

「受講にあたっての留意点」

- 申込みにつきましては、WEB申込みのみになります。上記申込URLよりお申し込みください。
- 当日はインターネットへの接続と音声出力が可能なPC、スマートフォン等をご用意いただき、受講してください。
- 迷惑メール防止のため受信設定をしている場合は、@leanonme.co.jpのドメイン指定受信設定を行ってください。
- メールが届かない場合は、社会福祉法人北摂杉の子会までお問い合わせください。

(推奨受講環境について)

・OS: Mac OS / Windows7以降 ・推奨ブラウザ: Google Chrome ・メモリ: 2G以上 (64bitOS)
・解像度: 1280×720pixel以上 ・インターネット接続: ブロードバンド接続を推奨

※本セミナー参加申込にかかる個人情報等は、共催者間で共有させていただきます。また、本申込に記載された個人情報等は、本セミナーの運営の他、共催者からのご案内に利用させていただきます。なお、利用目的の全文など個人情報の取扱いについては、下記ホームページをご覧ください。

株式会社Lean on Meホームページ
<https://leanonme.co.jp/about-lean-on-me/privacy-policy/>

Lean on Me (リーオンミー) について

私たちは、知的障がいのある方が今よりも生きやすい世の中になるために、オンライン研修を通じて事業所へ社会へ発信をしている会社です。創立から障がい福祉に特化したサービス一筋で取り組み、オンライン研修サービスは5年目を迎えました。

代表の想いから、研修業界では珍しい、重度の知的障がいのある方を支援する、支援者向けに特化しています。

そのオンライン研修サービス「Special Learning (スペシャルラーニング)」は、

- ◆社会福祉法人北摂杉の子会 理事長 松上利男氏
- ◆NPO法人自閉症eサービス 代表 中山清司氏
- ◆一般社団法人ホワイトハンズ 代表理事 坂爪真吾氏

をはじめとする著名な専門家、団体と連携のもと、「挨拶の基本」から「強度行動障がい」、「事業所におけるコロナ感染予防策」等、400を超える幅広いコンテンツをご用意しております。

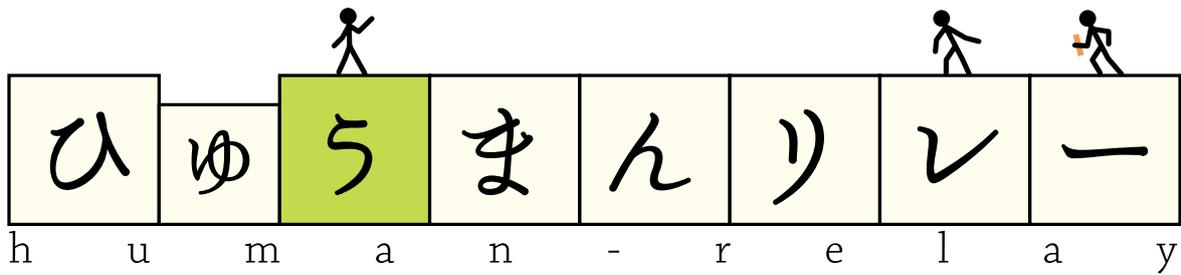
【今なら! 障がい者支援者向けオンライン研修サービス、「Special Learning」を無料でお試しください!】詳しくはHPへ

配信協力会社 株式会社Lean on Me

TEL 072-648-4438 FAX 072-668-2066
Mail support@leanonme.co.jp HP <https://leanonme.co.jp/>
(本社) 〒569-0093 大阪府高槻市萩之庄5-1-1-502
(大阪支社) 〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島1丁目9番20号 新中島ビル8階GH
(東京支社) 〒100-0004 東京都千代田区大手町2-6-2 日本ビル12階

リーオンミー
公式ホームページ





「私たちの願い」

社会福祉法人はる 理事長 ふくしま りゅうさぶろう 福島 龍三郎さんより

私たちの願いは 障害のある人たちが
一人ひとりのかけがえのない人生の主人公として
生涯を通して幸せに暮らしてもらうことです

私たちは 障害のある人たちが 安心して
いきいきとした生活を送ることができるために考え 行動します

私たちは 関わる人たちとのつながりを大切にし 信頼関係を築き 協力します

私たちは 障害のある人たちとの関りを通して 多くのことを学び
感謝と前向きな気持ちを忘れず はるの願いの実現を目指します

これは、私たち社会福祉法人はるの理念です。

社会福祉法人はるは、佐賀県佐賀市において2002年に「福祉作業所ハル」として誕生しました。福祉作業所（一般的には小規模作業所と呼ばれていました）という言葉は、今では聞き慣れなくなりましたが、制度が今のように整っていなかった当時は、福祉作業所に障害のある方に地域で当たり



前に暮らしてほしいという想いがたくさん詰まっていた。いま振り返ると、脆弱な補助金により運営されていた福祉作業所は、事業として十分に成り立つものではありませんでしたが、熱い想いだけで取り組んでいたように思います。

しかし、数年運営していると、障害のある人たちを支えていくうえで福祉作業所による運営に限界を感じていたのも確かです。そのようなときに障害者自立支援法が施行されました。この法律ができたことによって、事業としての継続性を考えることができるようになりましたし、障害のある人たちの生活を支えるための様々な事業にも取り組むことができるようになり、不透明だった先行きに光明が差したように感じたことを思い出します。

それからは、障害のある人たちを地域で支えていくためにグループホームやショートステイ、ヘルプなどのいわゆる地域生活支援のためのサービスを展開してきました。

一方で、はるでは障害のある人たちの生活が少しでも豊かになるようにアート活動の支援にも取り組んでいます。現在は佐賀県文化課より委託を受けてSAGA ARTBRUT NETWORK CENTER (SANC) を開設し、佐賀県内の障害のある人たちのアート活動の普及を行っています。福祉現場では支援する立場（職員）と支援される立場（ご利用者）の関係性がどうしても生じますが、アートを介するとその関係性がフラットに（時にはご利用者の方がはるかにリスペクトされるように）なります。また、アートというフィールドには、福祉の関係者だけでなく、デザイナーや学生、マスコミ関係者など、様々な分野の人たちが集まりやすい（つながりやすい）魅力があります。ある重度の知的障害と自閉症のある女性は、丸や三角や四角などをすごいスピードで描かれます。その作品が何とも言えずデザイン性が高く、お母さんの熱心な取り組みもあり、今は全国にご本人やその作品のファンがいます。また、芸術系の学生さんたちと一緒に作品を創作するなど様々な交流も生まれていて、ご本人もその交流を楽しみにされています。事業所の中で支援をしているだけでは考えられないような生活の広がりが生まれてくるのもアート活動の魅力だと思います。

また、私たちが悩んできたことの1つに、関わってきた障害のある人たちの中でも最重度の人たち、いわゆる強度行動障害のある人たちの生活をどう支えていくかということがありました。今でも忘れませんが、生活介護を利用している方の支援会議のときに、お母さんが体調不良でもお子さんを支えていかなければいけない現状を訴えられ、同席していた高校生の妹さんが「これが私たちの運命だから仕方がない」と泣き出されたことがありまし



た。このようなご家族に対して、私たちは何もできませんでした。

このような悩みを抱えていたなか、強度行動障害支援者養成研修がはじまり、全国地域生活支援ネットワークの一員として研修の組み立てやテキストの作成に携わるようになりました。そのなかで、全国で強度行動障害のある人たちへの支援に熱心に取り組まれている方々とお会いして本当に感銘を受け、また勉強になりました。北摂杉の子会の皆さんにも大変お世話になり、その縁があって当法人においても強度行動障害のある人たちを対象としたグループホーム「コンフォートながせ」を設立することになりました。コンフォートながせの設立に向けて、松上さんにも当法人にお越しいただいて研修で話をさせていただいたり、レジデンスなさはらさんに職員が実習に行かせてもらいました。「コンフォートながせ」は設立して3年となりますが、試行錯誤の3年間でもあり、まだまだ安定しているとは言えませんが、強度行動障害のある人たち（実際には強度行動障害で自分の気持ちを表現せざるを得ない人たち）が地域で安心していきいきと生活ができることを目指してこれからも取り組んでいきたいと思っています。

現在、当法人では中期計画のキーワードとして「土台の築き直し」を掲げています。理念を実現するためにあらためて職員の皆さんに伝えることを整理したり、処遇の改善、支援スキル向上などの取り組みを地道にやっています。今後とも地域で障害のある人たちをしっかりと支えていくことができる法人になれるように努力していきたいと思っています。

地域における包括的支援体制の構築をめざして

～地域連携を考えて～



特定非営利活動法人

高槻子育て支援ネットワークティピー

理事長 石井 智子 さんより

●高槻子育て支援ネットワークティピーについて

当法人が活動を始めた平成6年は少子化の一層の進行や女性の社会進出などの変化に対応するため、「今後の子育て支援のための施策の基本的方向について（エンゼルプラン）」が策定され、少子化対策が推進された年でした。

まだ『子育て支援』という言葉も制度もなかった時代から、多くの子育て現場で切実な子育てに対する不安や仲間を求める声、情報を必要としている現状等々を身近で聴き、親子・家族・地域にとって今必要な支援は何かを把握し、その時々に応じて子育て支援事業を実施してきました。

平成14年に法人格を取得し、自主運営の「ひろば」を常設、平成18年から高槻市の補助金事業として地域子育て支援拠点事業「ティピーおやこの広場」を開設し現在に至ります。

高槻市では平成18年度以降、中学校区に1つの目安で、地域子育て支援拠点（以下、拠点）が整備されました。拠点は主に0～3歳の親子が利用する場として地域での子育て支援の役割を担っています。

●北摂杉の子会との連携

平成27年より「ティピーおやこの広場」に、こども発達支援センターwillの小林さんが巡回相談で来て下さることになりました。

「ティピーおやこの広場」は、乳児から小学校入学までの子どもと親が遊びに来られます。子どもが産まれるまで乳幼児に接した経験がなく、身近に子育てモデルもなく手探りの育児に不安を感じている親や、1歳半を過ぎると、言葉がゆっくり、静かにしていることが難しい、かんしゃくがひどい等、我が子の育ちに不安



に感じ、子どもへの接し方がわからず戸惑う親の姿が見受けられるときがあります。

小林さんは毎月一回第1木曜日の午前中に



拠点に遊びに来ている子ども達と一緒に遊んだり、遊ぶ様子を優しく見守って下さったり、親からの相談にとても丁寧に耳を傾け、1人ひとりを優しく受容して、必要に応じて専門機関の紹介等のアドバイスもして下さいます。

堅苦しい特別な「相談窓口」としてではなく、いつもの拠点に遊びに来たときに相談ができる敷居の低さが何よりありがたいことです。

また、拠点スタッフが日頃気になっている子どもさんの行動や様子を伝えると、遊び方や接し方のアドバイス、親への声かけのポイントを教えてくださいます。スタッフは発達や相談支援の専門家ではありませんので、小林さんに相談することで視野が広がり、日頃の親子への接し方の参考になり勉強になることがたくさんあります。

●地域の中で目指すもの

子どもたちの育ちを取り巻く子育て環境は多様で複雑化し、尚且つ問題が潜在化し、個人や家族単位では解決できにくくなっています。社会全体で真剣に関わっていかなければいけない時代になっていると強く感じます。

地域子育て支援拠点事業は、妊娠・出産・子育てに関する各ステージにおいて親子が身近で気軽に來ることができる間口の広い入り口です。

専門機関である、こども発達支援センターや地域の保健又は福祉に関する多機関との関係づくり、連携を行うことで、高槻市の地域における包括的支援体制の「子ども分野」で、地域の特性に応じた妊娠期から子育て期にわたる連続した切れ目のない支援を提供する体制の構築を目指していきたいと思ひます。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

愛・植えむ



ふく なが しょう こ
福 永 祥 子 さんより

専業主婦歴20数年の私が一念発起して自宅の1階を改装し、ギャラリー喫茶をオープンしたのは、三男が近くの作業所に通うようになったのとほぼ同時期でした。養護学校の三年間、電車、バスを乗り継いででの送り迎えからやっと解放され、最初に思ったことは「この子と共に地域で生きてゆきたい」という強い願いでした。

厨房も整い、店の中央には楕円形のテーブルを1個、それらしい雰囲気づくりにも神経を使い、四月五日オープンの朝はどきまでも続く青い空に思わず合掌したのを今でも覚えています。

多感な少女時代をあつ悲惨な戦争体験で過ごした主婦たちが、子育ても終え「さあこれからが私自身の人生だ」と絵画や書道そして手芸などにいそしむ、世はまさにカルチャーブーム。しかし主婦たちが気軽に作品発表できるギャラリーはそう多くはない。そんな背景もあって、私は壁面をギャラリーとして無料解放し、お茶代だけを頂くことにしようと決意しました。

当時まだ現役のサラリーマンだった連れ合いが「赤字にならないければ好きなようにするがいい」と承知してくれたのは、おそらく三男と私の二人三脚ぶりをずっと見守っていたからでしょう。

以来30年、経営(?)のスタンスは今もって相変わらずですが、創作意欲旺盛な主婦たちからはパッションと刺激をもらい、絵画や書それに陶芸作品など、物作りの女性たちのひたむきさを身近に感じ、表現することの喜びを共に分かち合えるスペースであったことは何よりも嬉しい。

とはいっても、開店当初は1杯のコーヒーさえまなならず、少し慣れた頃には、三男の突然の入院騒ぎ。振り返ってみれば、マイナスが重なり合っただけのスタートでした。

しかし最近は一(マイナス)に、もう1つ今度は縦に| (マイナス)を加えるとほら+ (プラス)になる」

と発想も随分と柔軟に向日性も半端ないぐらいできてきました。

おまけに高貴(?)高齢者というありがたいお墨付きを頂いてからは+ (プラス)を少し斜めに傾けると「出来た!」× (カケル)になっています。年齢を重ねることも悪くはない。少し斜めに傾いていることで「架ける」こともできます。

長い年月、日々の暮らしの中から培った経験値と価値観(それほど大袈裟のものではないですが)が同じような友人たちにも恵まれ、今いちばんの楽しみは、そんな仲間と立ち上げた「人形劇一座ロックン・ローヴァ」です。

何ともユニークでユーモラスな手作り人形たちを舞台に登場させ、黒子のローバたちが意気揚々、時にはずっこけながら巧みに操る。

近隣の幼稚園や老人ホームなど、お呼びとあればどこにでも参上! 駆けつけると「演じるあなた達が心底嬉しそうなのでこちらも楽しいよ」と好評を博しています。

20坪足らずの我が家の1階を改装して、オープンした店の名前は*「あいうえむ」。様々なあい(愛・哀・逢・I (私))を植えられますようにと名付けました。

科学、文明の進歩、人類の英知には限りがなく、月旅行へのパスポートも、もはや夢ではありません。しかし、私は此処でいい。此処がいい。

身近な友人たちが住むこの場所で、家族や三男と共に生きてゆこう。

年齢を重ねつつ、少し斜めに傾きながら「人から人へと架けてゆこう。」懸ける何かがある限り…。駆けてゆこうとそう願っています。



※ジェイ・ブランチャヨどのご利用者の作品を展示していただいています。

事業所支援の見直しと再構築 デザイン思考に学ぶプロトタイプ支援の実践



ショートステイセンターぶれす

支援員 介護福祉士 村田 拓也

■ はじめに

ショートステイセンターぶれす(以下ぶれす)では、ショートステイの機能のひとつであるご家族の休息のための預かる場所“レスパイトサービス”だけでなく、ご利用される方が自分のスキルを存分に発揮しながら楽しむことのできる場所を目指し“個別支援を受けることの出来るショートステイ”をミッションに、ご利用者・ご家族の本質的なニーズを視点に支援を進めてきました。

ぶれすでは毎月100人程が入れ替わりご利用されます。その中でご利用者1人ひとりに合わせた環境設定する難しさがあります。知的障がいに伴う自閉スペクトラム症のご利用者の方は見通しを持つことの困難さがあり、この課題を克服するために、写真や絵カード、先の予定等の見通しを持っていただくことのできるスケジュールシステムなど、ご利用者の特性に合わせた支援や、ご利用者自身の想いを自発的に伝えるためのコミュニケーション支援を取り入れながら環境を整えてきました。

これらの取り組みで、ぶれすの環境は大きく変わり、支援現場には様々な支援ツールや提示物が増えています。その結果、ご利用者の生活のしやすさや、行動面の様々な課題の減少につながっていききました。

■ 課題

新たな取り組みによって新たな課題も出てきまし

た。それは2点あります。

1つ目は支援ツールの増加です。写真、絵カード、スケジュールシステムなど、ご利用者の生活のしやすさに役立つ物が増える一方、いつもの環境の中に新しい物が増えたことで、それらを気になる物として認識される方も出てきます。このようなツールは、結果的に破られたり、捨てられることも多く、中には何十回と作り直すこともありました。

2つ目は、表出のコミュニケーション支援が進まないことです。ぶれすには、言語でなく絵カードや写真での理解が得意な方が多いため、絵カードを使ったコミュニケーションシステムである*PECSを導入しています。しかし、PECSを使うには、人員や時間、場所の確保が必要となります。ぶれすではこれらの確保が難しく、思うように進展しない状況となっていました。

これらの課題の原因は、不特定多数の方が日替わりでご利用されるといった、ショートステイ独特の支援環境にあります。そうした支援環境を大きく変えるのは難しいと考えていました。

■ 問題解決方法を探る

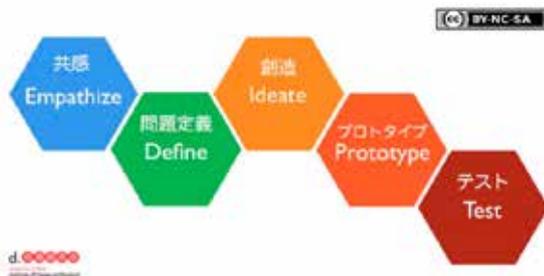
長い間行き詰まっていた状況を打開するには、これまでとは違った側面から支援方法を考える必要があります。そうした中“デザイン思考”という問題解決の思考法を知りました。この思考法は、新しい形や工夫を生み出すためにとても有効です。

様々な課題を抱えるふれすには、新しい形や工夫が必要と判断し、この思考法を参考にしました。デザイン思考は5つのステップを踏んで問題解決を行います。(図①参照)ふれすでは特に重要な下記3つの工程を中心に支援の見直しを行いました。

1. より深く利用者に共感したアセスメント
2. 情報を集約し実現可能な方法を明確化
3. プロトタイプ(試作品)の作成と実践

つまり、“既存の支援が難しいのであれば、ふれすの環境に合った独自の支援方法を考える”ということなのです。

【図①】



■ 取り組み

【理解コミュニケーション、スケジュールの見直し】

ふれすでは、ご利用者が来るたびに人や物が変わる環境です。従って、いつも同じ場所に1人ひとりに合わせた個別のエリアが確保出来ないケースも多くあります。スケジュールは本来、同じ場所に設置し、確認してもらうのが望ましいですが、この環境では、そのようなスケジュールの導入方法は難しく、機能していないものがたくさんありました。この問題を、デザイン思考を使い考えました。新たな方法として、手持ちで移動できるサイズのスケジュールを定員分作成しておくこと。スケジュールを各ご利用者のロッカーに張り付けてみる。この2点の取り組みを行いました。

理解コミュニケーション：絵や写真など、さまざまな視覚的支援具で「理解」を促すコミュニケーション



個々のスケジュール

【表出コミュニケーション 共用部】

ふれすには、言葉で伝えるのが難しい方のために、絵カードや写真を使った共用の要求ブックがあります。これはこれまで自分の想いを上手く伝えることが出来なかった方へ、要求のきっかけを作りたいという思いから作成しましたが、ご利用者の関心が得られず、使用されることはほとんどない状況でした。改善策として、まずはご利用者の要求を余暇のみに特化したブックにする。さらに、ふれすでもっとも多くの方が興味を示すDVD専用のブックを作成し、ブックを見るのが苦手な方にはDVDパッケージ型の一覧も作成しました。

これについては、デザイン思考の中でも、“共感”を強く意識し、ご利用者が本当に必要としている想いを形にしました。

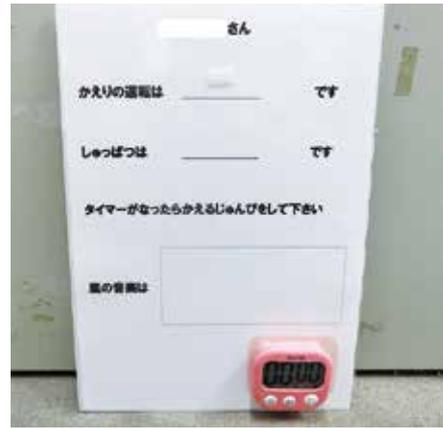
表出コミュニケーション：相手に情報を伝えるコミュニケーション

【PECS】

絵カードを使ったコミュニケーションシステムPECSを使うと、個別に教える時間がない、人員が確保出来ない、などの問題が生じます。これについては、写真を使った手順書を作成。人員を確保してから取り組むのではなく、現状の体制や環境の中で出来る方法を考え、要求を覚えやすいという環境面へのアプローチから取り組みました。



DVD専用ブックと手順書



情報量を限定したスケジュール



DVDパッケージ一覧



要求カード

【個別】

ご利用者1人ひとりが理解しやすい方法を支援の基本に据え、支援ツールの見直しを行いました。大きく変えたのは2点です。

1つ目はスケジュールの情報を減らした事例です。これまで使用していたスケジュールを見直すと、支援者に知らせたい情報が多く、ご利用者が本当に知りたい情報が少ないことが浮き彫りに。そこで、いらない情報を削り、知りたい情報のみの提示に変えることにしました。

2点目は、PECSが上手く進まず、絵カードで欲しいものを要求する練習が出来ていなかった方への支援です。人員や環境の確保の問題で、本来の練習方法ではほとんど進まなかったため、別の方法を模索。その結果、いつもの生活動作の中に要求できる場面を作るのが、実現可能な方法として挙がりました。そして、来所時に使用する共用部のロッカーに要求カードを張り付けることにしました。このように1人ひとりに合わせた支援の形を各所に作っていきました。



要求用ブック

■ 成果

ロッカーに張り付けたスケジュールについては、大きく変化がありませんでした。よく見える場所にあるので、見る方が増えましたが、新たにスケジュールの理解につながった、ということはありませんでした。

一方、表出コミュニケーション支援の成果は大きく、中でもDVDのパッケージとブックは使用頻度が高く、支援者の促しや介入なしでカードを使った要

求方法を覚える方も多くなっています。これをきっかけに、ホール内にある写真、イラストを使った別の提示物への興味や、時には別のおもちゃの要求に繋がり、自発的な要求が増えていきました。

写真を使った要求動作の手順書については、うまくご利用者の興味には繋がらず、長い間使用されることはありませんでしたが、ある時、ご利用者の中でも特に自立度の高い方が手順書をじっと見て、写真カードで欲しいDVDを要求されることがありました。この方は、普段は言葉でコミュニケーションをとられますが、欲しい物を自分から要求されることはほとんどありませんでした。新しい取り組みから、新しい気づきを得ることができました。

1人ひとりに合わせた支援の形は成果が出るのも早く、スケジュールの情報を減らした方については、内容を本当に知りたい情報のみにしたことで、スケジュールを知りたいという動機が強まりました。これまでは、支援者の声掛けに依存し、声がかかるとをじっと待っていることが多い状態でしたが、スケジュールに変えた後は、スケジュールの記載や確認のために指差すことや、支援者の元へ持ってきて、ときには言葉で支援者に記入を要求されるようになりました。

ロッカーに要求カードを張り付けて取り組みをしていた方は、すぐに意味を理解し、カード要求が出来るようになりました。これまでは、かばんを直す前に気になったおもちゃが視界に入ると、そのままおもちゃへと向かうこともありましたが、ロッカーに要求カード（おもちゃの写真カード）を貼り付け、カードと交換で渡すようにしたことで、かばんをなおす、かばんからノートを出す動作が定着し、生活スキルの向上にもつながりました。

■ 最後に

今回は、デザイン思考を取り入れた様々な取り組みで、結果を多く出すことが出来ました。しかし、結果だけでなく大切なことに気付くきっかけともなりました。それはアセスメントの重要性です。おれすのように日々変化する支援現場では、常にご利用者を知ること、共感し続ける力が必要です。今回の全ての取り組みには、日々深く共感しご利用者と接することが必要不可欠でした。毎日あわただしく変化するショートステイだからこそ、共感する能力を持ち、今後も日々のアセスメントを大切にしながら取り組みを行っていこうと思います。

絵カード交換式コミュニケーションシステム (PECS)®

PECS®ってなに？

アンディ・ボンディ (Ph.D.) とロリ・フロスト (MS.CCC-SLP) によって開発されたコミュニケーション支援システムです。

PECSは6つのフェイズ（段階）から成り立っており、対象者が一枚の絵カードを“コミュニケーションパートナー”に渡すところから始まります。絵カードを渡されたコミュニケーションパートナーはすぐにその交換を要求として受け取り、要求を叶えてあげます。次に、絵カードの弁別（認識）を教え、そしてどのように文を構成するのかを教えます。さらに上のフェイズでは、対象者は修飾語を使ったり、質問に答えたり、コメントしたりすることを教わります。PECSの最優先の目標は機能的コミュニケーションを教えることです。

研究の中では、PECSを使っている中で発語が出るようになった生徒もいることがわかっています。音声表出機器（SGD）に移行する方もいらっしゃいます。PECSがエビデンスベースの介入であり、PECSの効果を実証する研究は沢山発表されており、増え続けています。今現在世界中で150以上の研究が発表されており、PECSの効果を裏付けております。

ピラミッド教育コンサルタントオブジャパン(株)の
オフィシャルホームページより抜粋
<https://pecs-japan.com/>

長期支援で見えてきた地域支援の連携と広がり



生活支援センターあんだんて 主任

社会福祉士・精神保健福祉士 掛川 ちひろ

■ はじめに

生活支援センターあんだんて（以下あんだんて）は高槻市より委託を受けて、障がいのある方やそのご家族からの相談をうかがいながら、様々な情報提供や支援を行っています。

子どもの「ひきこもり」が背景としてある80代の親が50代の子どもの生活を支えるという問題、いわゆる「8050問題」が取りざたされていますが、あんだんてが関わったケースでも、高齢で持病のあるご両親と引きこもりの40代の娘さんが同居しているケースがありました。

共倒れになり兼ねないような状態から、あんだんてのサービスを利用しながら1人暮らしができるようになるまでの、長期間にわたる地域の支援機関との連携と広がりについて報告します。

■ 経過

平成21年6月あんだんての支援開始時、ご両親と共に住む府営住宅は不用品で埋め尽くされ、ご本人は自室に引きこもり夜は座って寝ていました。20代の頃には、親の援助で单身生活をしては部屋を物で溢れさせ、3度の転居をするものの破綻し、実家に戻った経過がありました。

親への要求は一方的に筆談で伝え、トイレ・洗面も親と会わないように済ませていました。潔癖で身の回りの物や自分自身をもビニール袋で覆い、自分の

膝より下の空間や親の触った物は不潔と感じて触れなくなるため、どんどん物が溜まっていました。

「ご家族の不安の軽減」「ご家族に何かあったときの重大な局面を逃さないために」として、ご本人に会えなくても毎月の家庭訪問を継続してきました。5年経過した平成26年12月に突然お母さんが扉を開けたことでご本人と初対面でき、その後再び会えない期間は続きましたが、手紙を扉の隙間から差し入れるなどしながら、訪問を継続しました。

長年、座位・立位しかとれず、ほとんど入浴もせず足が化膿。リンパ浮腫（リンパ管の流れが悪くなることで起きる手足のむくみ）が悪化して蜂窩織炎（ほうかしきえん：皮膚の傷などから細菌が侵入し、皮膚とその下にある脂肪組織などに炎症を引き起こす）から敗血症（感染症によって生命を脅かす臓器障害が現れる状態）を合併し緊急搬送され、平成28年5月に医療保護入院。ようやく精神科病院につながり、それと同時にあんだんてがご本人に直接関わられるようになりました。

病室でもベッドやその周辺は物で溢れ、全ての物にビニールをかけ、スイッチ・ドアノブ・椅子など共用の物には触れられず、頻繁にお母さんに電話をし、自分の要望をスタッフに伝えさせたり、お金や物を届けさせたりしていました。またお母さん自身も癌が見つかって入退院を繰り返すようになり、お父さんも他界し、親との同居及び親からの経済的支援が不可

能になりました。共同生活であるグループホームを嫌がったため、以前は破綻を繰り返した単身生活をどう支えるかを病院スタッフと話し合い、連携して支援を開始しました。

病棟看護師とは、ゴミまよめの練習・足浴、病棟の洗濯機を使用、作業療法士とは、買い物から調理までの個別の実習など、家事スキルのアセスメントの協力も得られました。また、ヘルパー事業所も、退院前からご本人との関係構築を図ってくれました。やるべきことの優先順位が減茶苦茶であったり、現実離れした要求をしたりするなど、「本当に退院できるのか」と不安になることもありました。しかし、ご本人の「退院したい」という思いを叶えるために、諦めずに粘り強く関わり続けたこと、また定期的に会議を重ねて、支援の進捗状況の確認、対処・解決方法を検討し、関係機関が一丸となって支援したことで退院することができました。

■ 現在の生活

退院時に危惧された通り、物が増え、横になるスペースも徐々に失って、再び座位で眠る状態になっています。

しかし、入院前との大きな違いは、医療や福祉の支援を受け入れていることです。自立的に定期的な精神科通院ができており、あんだんてが同行して病院との懸け橋になることで、整形外科にも通院できています。訪問看護による、足の状態確認や清潔保持のための足浴も受け入れ、足の切断という最悪の事態には至っていません。あんだんての訪問にも応じ、以前よりも自ら意思表示したり、返答もスムーズになったりしています。

また、あんだんての支援で成年後見制度の利用も開始し、お母さんの不安や負担も大きく軽減されました。

■ まとめ

現状も物で溢れ、横になって寝るスペースもない部屋で、日中活動や余暇もなく『これでいいのか』と思われてしまうような生活ではあります。しかし、『死なない』『火事・事件をおこさない』『人を傷つけない』という最低限のルールは守ることができています。

また支援者との約束であった、「自身の生命を守るための通院や訪問看護の利用」は継続できています。何より、お母さんの助けがなしでは何もできない状況から、お母さんと離れて他者の支援を受けながら生活できていることは、このうえない成長です。

まさにこれは、法人の理念である『地域に生きる』が達成できている事例であると言えます。そしてこれは、長年に渡り定期的に訪問を続け、沈黙が続いてもご本人の意思を聞き取ろうと面談を重ねた、あんだんての根気強い関わりと地域連携の成果に他なりません。

今回の一連の支援は、退院困難事例に対する病院スタッフの意識改革にも繋がり、退院に向けて積極的に取り組むきっかけになったのではないかと思います。

なお、この事例は、精神科病院入院中の主治医によって、令和元年11月15日発行の『精神医学』に《中・高年ひきこもり女性に対する地域移行の1例》として発表されました。





杉の子 いいね!

凸レッツ凸
クリエイティブ
アート!

当法人のご利用者には、様々な特技をお持ちの方や表現活動（絵画・詞・陶芸等）を行っている方がたくさんおられます。このコーナーでは、そういった活動を紹介しています。たくさんの読者に「いいね!」「共感した!」という想いを届けたいと考えています。



繊細な動きが見えるような切り絵をカッターナイフ1本で仕上げています。ただいま「春夏秋冬」のテーマで作成中!完成が楽しみです。「職人技」の切り絵はぜひ一度、実物をご覧ください。

ぷれいす Be 川島正毅さん



毎日の食事のメニューをチェックするところから始まった活動です。料理本の中から好きなメニューを選び、レシピを読み込みます。色々な想像を膨らませ、下書きから色塗りまで、じっくりと描いています。レシピ本の完成を目指しています。



ぷれいす Be 山本健太さん

掲示板コーナー

(令和2年9月から令和2年11月まで)

法人事業部 掲示板

9月	行 事
4日	第2回新人研修 労務管理、人事考課、予算等について 医療連携推進室会議
9・28日	経営会議
11・25日	運営会議
13日	高槻市社会福祉協議会 採用イベント
25日	第3回新人研修 ビジネスマナーについて

10月	行 事
2日	医療連携推進室会議
5・19日	経営会議
9・23日	運営会議
10・24日	内定者研修 法人の設立の経緯と社会福祉法人のあり方について
23日	権利擁護虐待防止委員会
30日	第4回新人研修 メンタルヘルスケア・ハラスメントについて

11月	行 事
6日	医療連携推進室会議
7日	第3回法人全体研修 オンライン開催 事例発表 ジョブサイトひむろ、ぶれいす Be、地域生活支援部たかつき、地域医療支援部、相談支援・人材育成研修部、地域生活支援部よど、就労支援部、児童発達支援部、法人事業部
11・24日	経営会議
13・27日	運営会議
20日	第5回新人研修 権利擁護、虐待防止について
26日	第128回理事会 第1号議案 定款変更の件 第2号議案 諸規則、規程類の改正の件 第3号議案 補正予算案の件 第4号議案 理事長職務執行状況報告の件 第5号議案 事業計画進捗状況の件
27日	京都女子大学内インターン説明会

(河辺 記)

内定者研修



萩の杜 掲示板

～夏から秋へ～



紅葉の秋！



食欲の秋！



ハロウィンパーティーをしました！



こたつでまったり♪



(池田 記)

ジョブサイトひむろ掲示板

9月4日 たかつきマルシェ



新型コロナウイルスの影響で久しぶりのマルシェの開催です。
マスク、フェイスシールド、距離をあける対策をとっての出店となりました。

★新作の商品も多く並びました。★

10月・11月 ひむろファームの収穫祭



10月には人参、11月には黒豆枝豆を収穫…予定でしたが、一部の黒豆枝豆は収穫時期が遅れてしまい、色や形が不揃いになってしまいました。来年リベンジしましょう！

10月30日 2020 杉の子農園 収穫祭 ランチフェスタ



今年はコロナの影響で収穫祭は中止に。杉の子農園で美味しく育った野菜を使った3施設合同の「秋の味覚弁当」です！
多くのご利用者が公園に出かけ、収穫祭のように、たくさんの緑や風を感じながらのお弁当タイムになりました。
食後の軽い運動も。楽しくリフレッシュできたでしょうか。

杉の子農園収穫野菜 秋の味覚弁当



包みの中身が気になります。
いつもと違う給食体験でした。



11月3・13・19日 ICF 勉強会

支援の共通言語として、ICF（国際生活機能分類）の勉強会を開催しました。



(近藤 記)

大阪府発達障がい者支援センター アクトおおさか

9月	行	事
4日	大阪府発達障がい児者支援体制整備検討部会	こどもワーキング
9日	大阪府ペアレント・メンター活動（茨木市）	
	大阪府発達障がい児者支援体制整備検討部会	成人ワーキング
10日	大阪府ペアレント・メンター活動	打ち合わせ（豊能町）
11日	発達障がい者支援センター3	センター情報交換会議
17日	地域支援マネージャー事業	打ち合わせ（柏原市）
18日	大阪府母子父子福祉センター	研修講師
24日	大阪府福祉職員向け研修	研修講師
25日	大阪府療育拠点連絡会	
29日	大阪府ペアレント・メンター活動	打ち合わせ（自閉症療育センターLink）
30日	地域支援マネージャー事業	打ち合わせ（茨木市）

10月	行	事
2日	大阪府ペアレント・メンター事業	運営委員会
6日	大阪府人権総合講座	研修講師
9日	地域支援マネージャー事業	研修会（熊取町）
14日	地域支援マネージャー事業	打ち合わせ（岸和田市）
16日	大阪府ペアレント・メンター活動（豊能町）	
20日	大阪府定時制通信制教育振興会	研修講師
22日	大阪府ペアレント・メンター活動（豊能町）	
23日	発達障害者支援センター全国連絡協議会	実務者研修会（web開催）
	地域支援マネージャー事業	事例検討会（池田市）
24日	発達障害者支援センター全国連絡協議会	実務者研修会（web開催）
26日	大阪府ペアレント・メンター活動	打ち合わせ（熊取町）
28日	大阪府ペアレント・メンター活動（豊中市）	
30日	第18回ASEAN・日本社会保障ハイレベル会合参加	（web開催）

11月	行	事
2日	地域支援マネージャー事業	事例検討会（能勢町）
5日	発達障害者支援センター全国連絡協議会	近畿ブロックセンター長 会議
	大阪府ペアレント・メンター活動（自閉症療育センターLink）	
6日	発達障害団体ネットワーク会議	
9日	地域支援マネージャー事業	研修会（交野市）
10日	大阪府ペアレント・メンター活動	打ち合わせ（東大阪市）
11日	地域支援マネージャー事業	研修会（熊取町）
12日	大阪府大手前高校定時制の課程職員	研修会 研修講師
13日	大阪府ペアレント・メンター活動	打ち合わせ（泉佐野市）
18日	大阪府ペアレント・メンター活動（熊取町）	
20日	大阪府ペアレント・メンター活動（豊能町）	
26日	大阪府ペアレント・メンター活動（池田市）	
27日	人権擁護士連絡会	研修講師
28日	大阪府ペアレント・メンター交流会 / スキルアップ研修会	

（山根 記）

アクトおおさか Topics!!

●公開講座（府民対象）

令和3年3月13日（土）にWEBセミナーを開催します。発達障がいのある当事者でありキャリアカウンセラーとして就労支援に携わってこられた広野ゆい氏を講師に「働き続けるカギを知る」をテーマに就労についてお話いただきます。

●お申し込みに関して

今回はWEBでの申し込みになります。後日アクトおおさかHPに詳細を掲載します。右のQRコードからも申し込めます。



申し込みはこちらから

<https://forms.gle/acdQ6bbJqqPWvhJ46>

令和2年度 大阪府発達障がい者支援センター
アクトおおさか 主催 公開講座

自分らしく
働き続けるカギを知る

働き続けるために大切なことは？

働く上でのレディネスが知りたい！

一緒に考えましょう！

広野ゆい氏に、キャリアカウンセラーとして障がいのある方の就労支援をしてこられた経験と、当事者としても働いてこられた経験の両方の視点から、どうすれば発達障がいのある方が強みを活かして自分らしく働くことができるのか等、就労のあり方についてお話を伺います。

是非ご参加下さい!!

キャリアアップについて悩んでいる...

周囲ができる環境調整は？

日時

2021年3月13日
(土曜日)
14:00~16:00

開催方法

ZOOMウェビナー

講師

NPO法人DDAC
(発達障害をもつ大人の会)
代表 広野ゆい氏

受講料

無料

定員・対象

500名 (先着順)
どなたでもご参加いただけます。

申し込み方法

<https://forms.gle/acdQ6bbJqqPWvhJ46>

受講の流れ

①申し込み完了メールの受信

※お申込み後、すぐに届きます

②招待URLメールの受信

※開催日の数日前を予定しております

③受講

お問合せはこちら

大阪府発達障がい者支援センター
アクトおおさか

大阪市中央区内本町1-2-13 谷町ばんらいビル10階A

06-6966-1313

担当者: 岡・藤田

- 申込みにつきましては、WEB申込みのみになります
- システムの管理上、同じメールアドレスを用いて複数名が申し込むことはできません
- 初めてzoomを利用される場合には、アプリの事前インストールが必要になります
- 当日はインターネットへの接続と音声出力が可能なPC、スマホ等をご用意いただき、受講して下さい
- 迷惑メール防止のため受信設定をしている場合は、ドメイン設定を解除、もしくは変更してください
- メールが届かない場合はお問い合わせください

児童発達支援部

a n



近鉄 大阪難波駅で写真撮影



手順を見てクリスマス工作



手順を見て朝食セット



予定を組み立てる

a z



スライム遊び



しゃぼん玉



すなねんど遊び



タブレットのスケジュール

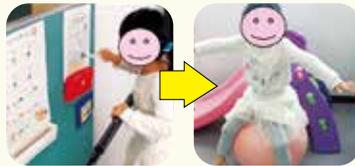


スケジュールを確認

Link



ルール表を確認して順番交代でゲーム



過ごし方リストを見て上手に遊べるよ



書き方の手順をみながらお絵かき

will



will・Link合同職員研修
(事業所のSWOT分析)



グループ療育の様子・前回作ったスノードームの感想を言い合っています

あゆみ



いもほり



クッキング



親子遠足

(薬師寺 記)